人と暮らしの 伊那谷遺産 プロジェクト

浦・黒河内森林鉄道跡

うら　くろごうち　しんりんてつどうあと

山奥の暮らしも支えた林鉄線

浦森林鉄道は、1939（昭和14）年、赤石山系の豊富な森林資源を開発するため、三峰川沿いの浦国有林に敷設された。現伊那市長谷の杉島貯木場を起点とし、南荒川終点まで23.6kmが整備された。1959（昭和34）年8月の台風と、1961（昭和36）年の三六災害で壊滅的な被害を被った。1964（昭和39）年に林道が完成し、浦森林鉄道は廃止された。

黒河内森林鉄道は、1939（昭和14）年、伊那市長谷黒河内の蟹坂貯木場（現保養センター仙流荘）を起点に小黒川沿いに敷設された（総延長19.8km）。戸台には70戸ほどの集落があり、森林鉄道は、木材、薪炭、生活物資、人員輸送も兼ね、黒河内国有林の動脈として機能し、生活に密接な関わりを持っていた。1956（昭和31）年に全線廃止された。

浦森林鉄道跡：三峰川（瀬戸峡）の河原から撮影

黒河内森林鉄道の橋脚跡：現在の林道の橋脚下に残る

浦森林鉄道の恩恵

森林鉄道は木材の運搬のほか、地元の住民、一般の人も乗車できた。通学、通勤にも利用され住民生活は飛躍的に向上した。事業当時、小瀬戸温泉付近に森林作業関係者の家々が集まり、子弟は市野瀬で寮生活をしていた。一方、山岳地帯に敷設された危険な軌道のため、事故による犠牲者も出た。

黒河内森林鉄道のインクライン

戸台には、急斜面に線路を敷いて、車両をワイヤでつなぎ、引き上げたり下ろしたりするインクラインがあった。東洋一とも戸台の華ともいわれ長さ500m、勾配30度、高低差250mほどもあったが、戸台谷の事業終了前の1944（昭和19）年に、支柱に落石があたり、一瞬のうちに谷底に崩落してしまった。その後事業地は、戸台谷から小黒川へ移った。

information

□ **アクセス**
伊那ICから25km
車→ 45分

□ **所在地**
伊那市長谷

（国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用）

南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク